

令和6年度「全国学力・学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立 上戸祭小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、令和6年度「全国学力・学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況等の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査期日

令和6年4月18日(木)

3 調査対象

小学校 第6学年(国語, 算数, 児童質問紙)

中学校 第3学年(国語, 数学, 生徒質問紙)

4 本校の参加状況

① 国語 82人

② 算数 82人

5 留意事項

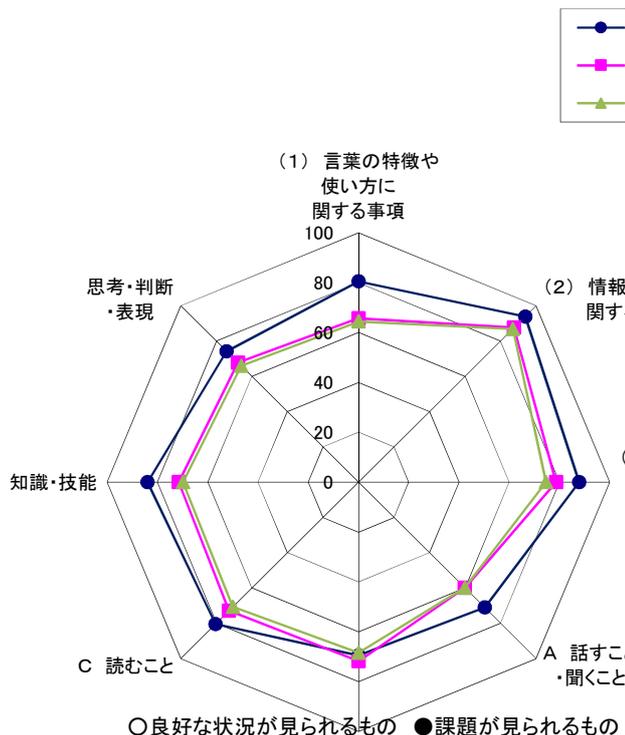
- (1) 本調査は、対象となる学年が限られており、実施教科が国語、算数の2教科のみであることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立上戸祭小学校第6学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【国語】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項	80.5	65.7	64.4
	(2) 情報の扱い方に関する事項	93.9	87.6	86.9
	(3) 我が国の言語文化に関する事項	87.8	78.6	74.6
	A 話すこと・聞くこと	71.1	59.9	59.8
	B 書くこと	69.5	71.8	68.4
	C 読むこと	80.5	72.9	70.7
観点	知識・技能	83.9	71.5	69.8
	思考・判断・表現	74.2	67.8	66.0
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

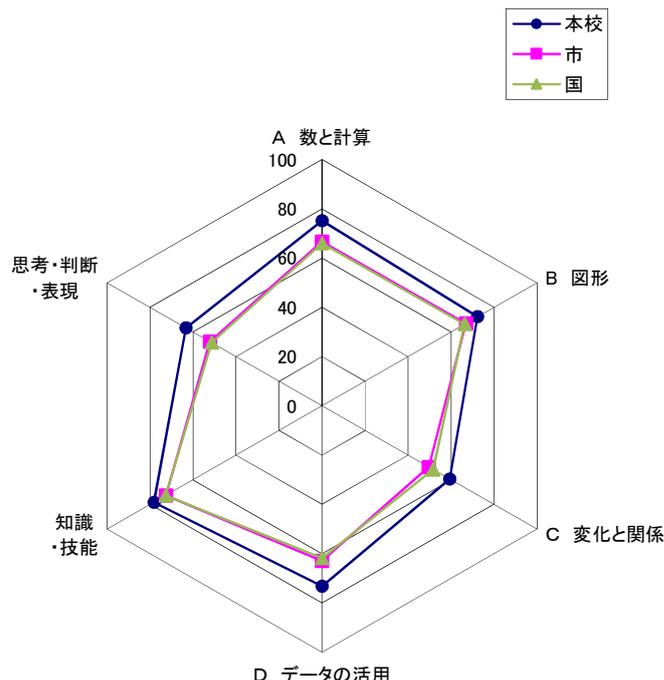
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
(1) 言語の特徴や使い方に関する事項	○領域の平均正答率は、80.5%で、市の平均を14.8ポイント上回っている。 ○全ての設問において、正答率は市の平均を上回っている。特に、文の中の漢字を正しく使うことができるかどうかをみる設問の正答率は、68.3%で、市の平均を25.4ポイント上回っている。	・学習や生活を通して、文章を書く際に既習の漢字を必ず書くように意識させたり、漢字の反復練習や確認テストを行ったりしながら定着を図る。
(2) 情報の扱い方に関する事項	○領域の平均正答率は、93.9%で、市の平均を6.3ポイント上回っている。 ○情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うことができるかどうかをみる設問で市の平均を上回った。	・今後も文章や資料を読み、目的に応じて情報を整理し活用する活動を意図的に取り入れる。
(3) 我が国の言語文化に関する事項	○領域の平均正答率は、87.8%で、市の平均を9.2ポイント上回っている。 ○空欄に入る内容として適切なものを選択する設問では、正答率が、87.8%で市の平均より9.2ポイント上回っている。	・今後も読書の充実を図ることで知識を豊かにし、様々な場面で生かすとともに、自分の考えを広げる手立てとできるようにしていく。 ・学習の最後に振り返りの時間を確保し、身に付いた力を実感できる機会を設ける。
A 話すこと・聞くこと	○領域の平均正答率は、71.1%で、市の平均を11.2ポイント上回っている。 ○全ての設問において、正答率は市の平均を上回っている。特に、目的や意図に応じて、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝え合う内容を検討することができるかをみる設問の正答率は、79.3%で、市の平均を13.9ポイント上回っている。	・今後も目的や意図に応じて、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝え合う内容を検討し、伝えたいことを明確にする活動を今後も計画的に取り入れる。
B 書くこと	●領域の平均正答率は、69.5%で、市の平均を0.8ポイント下回っている。 ●目的や意図に応じて、事実と感想、意見とを区別して書くなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができるかどうかをみる設問では、54.9%で、市の平均を4.4ポイント下回っている。	・今後も目的や意図に応じて、集めた材料を分類したり、関係付けたりして、伝える活動を多く取り入れていく。 ・文章の目的や意図に応じて、自分の考えが伝わるように工夫して書く活動を意図的に取り入れるようにする。
C 読むこと	○領域の平均正答率は、80.5%で、市の平均を7.6ポイント上回っている。 ○登場人物の相互関係や心情などについて、描写を基に捉えることができるかどうかをみる設問の正答率は、82.9%で、市の平均を14.5ポイント上回った。	・根拠となる文章に線を引き、読み取ったことを考え伝える活動を今後も取り入れていく。 ・考えの交流の際にはポイントを示し、観点に沿った話合いや読み取りができるようにする。

宇都宮市立上戸祭小学校第6学年【算数】分類・区別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【算数】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	A 数と計算	75.2	66.7	66.0
	B 図形	72.3	66.9	66.3
	C 測定			
	C 変化と関係	59.3	49.6	51.7
	D データの活用	73.2	62.9	61.8
観点	知識・技能	78.2	72.6	72.8
	思考・判断・表現	63.4	52.2	51.4
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
A 数と計算	<p>○領域の平均正答率は、75.2%で、市の平均より8.5ポイント上回っている。</p> <p>○示された情報を基に、表から必要な数値を読み取って式に表し、基準値を超えるかどうかを判断する設問では、正答率が63.4%で、市の平均を14ポイント上回っている。</p>	<p>・引き続き、ドリルやプリント・AI型個別ドリルなどで、計算の練習に取り組み、基礎学力の定着を図る。</p> <p>・生活経験に根ざした身近な問題に取り組み、理解させることで教科としての有用性を実感させる。</p> <p>・ペア活動やグループ活動を多く取り入れ、自分の考えを説明したり友達の考えと比較したりすることで、自分の考えを深められるようにする。</p>
B 図形	<p>○領域の平均正答率は72.3%で、市の平均を5.4ポイント上回っている。</p> <p>○直方体の見取り図について理解し、かく設問では、正答率が90.2%で、市の平均を6.2ポイント上回っている。</p> <p>●球の直径の長さと同立方体の一辺の長さの関係を捉え、立方体の体積の求め方を式に表す設問では、市の平均を10.9ポイント上回っているものの、正答率が48.8%と課題が見られる。</p>	<p>・具体物の操作やICTの活用などを取り入れ、図形の持つ特徴を視覚的に理解できるようにする。</p> <p>・図形の面積や体積の学習では、考えの理由を記述したり説明したりする場面を多く取り入れることで、理解度を高める。</p>
C 変化と関係	<p>○領域の平均正答率は59.3%で、市の平均を9.7ポイント上回っている。</p> <p>○速さが一定であることを基に、道のりと時間の関係について考察する設問では、正答率が78.0%で、市の平均を9.2ポイント上回っている。</p> <p>●道のりと時間の関係でどちらが速いか理由を問う設問では、正答率が40.2%で、市の平均を12.2ポイント上回っているものの、課題が見られる。</p>	<p>・算数の学習だけでなく、他教科でも割合を取り入れて考える場面を増やして活用の幅を広げるとともに、割合について慣れ親しませる。</p> <p>・自分の考えを言葉や数を使ってノートに記述したり、友達に説明したりする活動を意図的に取り入れる。</p>
D データの活用	<p>○領域の平均正答率は、73.2%で、市の平均を10.3ポイント上回っている。</p> <p>○折れ線グラフから必要な数値を読み取り条件に当てはまることを言葉と数を用いて記述する設問では、正答率が62.2%で、市の平均を15.3ポイント上回っている。</p> <p>○表を読み取り必要なデータを取り出して分類整理する設問では、正答率が84.1%で、市の平均を10.6ポイント上回っている。</p>	<p>・児童が問題解決をする場面の中で、説明する活動を多く取り入れる。</p> <p>・社会科や総合的な学習の時間等においても、必要な数値を取り出して分類整理したり、数や大切な言葉を使って文章表現する活動を取り入れる。</p>

宇都宮市立上戸祭小学校 第6学年 児童質問紙

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

- (9)「自分には、よいところがあると思いますか」の設問に対する肯定割合は96.5%で、県の割合を11.4ポイント上回っている。日頃から良いところを児童同士で認め合う活動をしたたり、教師が児童のことをよく見て肯定的な声掛けをしたたりしている成果であり、今後も自尊感情を高められる活動や声掛けをしていきたい。
- (25)「地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか」の設問に対する肯定割合は93%で、県の割合を7.5ポイント上回っている。地域や社会に貢献したいと思っている児童が多くいることが分かる。これは、児童が日頃から地域の方々と触れ合い、感謝の思いを持っているからこそであると推察でき、今後も地域との連携を密にできるようにしていきたい。
- (29)「5年生までに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していましたか」の設問に対する肯定割合は77.9%で、県の割合を11.8ポイント上回っている。自分の考えに根拠を持って建設的な話し合いができるよう、話し合い活動の機会を意図的に設け、いろいろな学習形態で発表し合う学習活動を積み重ねてきている成果と考えられる。引き続き、このような学習活動の充実を図っていきたい。
- (42)「国語の勉強は好きですか」の設問に対する肯定割合は81.3%で、県の割合を17.3ポイント上回っている。日頃から読書の習慣が身に付いており、読み書きへの抵抗が少ないこと、物語の世界観に浸ることが好きな児童が多く見受けられることなどから、国語の学習への関心・意欲が高いと思われる。今後も、読書指導の充実を図りながら国語の学習への関心を高めていきたい。
- (61)「英語の勉強は好きですか」の設問に対する肯定割合は87.2%で、県の割合を14ポイント上回っている。さらに(50)「算数の勉強は好きですか」の設問に対する肯定割合は、74.4%で、県の割合を13.2ポイント上回っている。引き続き、学習への興味・関心を高める工夫をし、発展的な学習ができるように意識していく。
- (24)「新聞を読んでいますか」の設問に対して、「ほとんど、または、全く読まない」と答えた割合は72.1%で、県の割合を5.2ポイント下回っているもの、不読率の高さが伺える。図書委員会による新聞記事を紹介するコーナーを活用し、児童の新聞への関心を高め、児童が新聞に触れることのできる機会を増やしていきたい。

chigau

宇都宮市立上戸祭小学校（第6学年） 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
書く力の育成	<ul style="list-style-type: none"> 根拠や理由を挙げながら、自分の考えを記述することができるよう、指導に力を入れている。 児童が見通しを持って学習したり、自力解決に取り組んだりする意欲を高められるように授業展開や課題設定を工夫している。 	<ul style="list-style-type: none"> 算数において、考えた理由を言葉や数を用いて記述する設問の正答率は、県の平均を12.2ポイント上回った。
自ら考え、交流し、学びを深められる児童の育成	<ul style="list-style-type: none"> 友達の考えと比べて自分の考えを吟味することで、考えを深められるようにしている。 	<ul style="list-style-type: none"> 「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか」という質問に対する肯定的回答率は95%を上回り、県の平均より高かった。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
国語の、目的や意図に応じて自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫する設問の正答率が低い。	<ul style="list-style-type: none"> 目的意識を持って書く力の育成 事実と考えを区別して記述する力の育成 	<ul style="list-style-type: none"> 児童の書きたい思いを引き出せるような題材を設定する。 資料から読み取った事実から考えられることを考察する活動を、様々な教科で意図的に取り入れる。